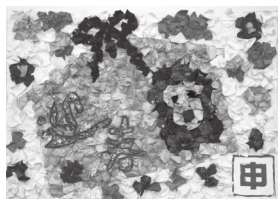


編集委員の選考会にて，来年度（第50巻）のOTジャーナル表紙に選ばれた作品です。



1月号「お正月」 貝 文江

貝さんは，小脳梗塞による失調症状で手が思うように動かせない中，色紙を丸めることから始め，貼り絵の作品を制作するまでになりました。洋裁学校を卒業し，指先の細かい作業が得意だった貝さん，絵馬に「また服がつくれますように」と思いを込め，躍動感ある作品が完成しました。（担当 OT：上新 仁）



2月号「みんな手(で)富士山」 認知症病棟患者様一同

当院では毎年11月の『OT作品展』で，患者様が作品を発表します。今回は「富士山」をモチーフとし，認知症病棟に入院されている患者様約57名で制作しました。定期的に集まっては手形を押し続け，155×216cmの大きな富士山の絵を約2カ月間かけて完成させました。（担当 OT：森 友哉，山崎衣里子）



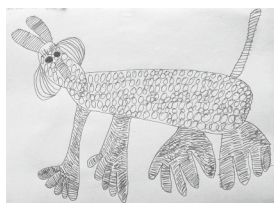
3月号「南アメリカの最強ハンター ジャガー」 岡本 徹

自分としてはかなりの力作です。まずは輪郭を出して，毛なみを出すところに力を入れ，目が輝くように仕上げました。今年の2～5月に週2時間で描きました。完成まで苦勞しましたが，良い作品になりました。OT絵画クラブでみんなの前で紹介されたときに，大拍手を受けてとても嬉しいです。



4月号「福島春満開」 小谷ミヨシ

ミヨシさんは脳出血で約半年にわたる長いリハを経てご自宅に退院されました。自宅に帰ってからは不自由な左手の練習のために，もともと好きだった手工芸に挑戦され，中でもちぎり絵は数年継続しています。お孫さんはミヨシさんの作品を楽しみにしており，作品づくりがご自宅での役割ともなっています。（担当 OT：鈴木美紀）



5月号「僕のフリーダム動物園」 田中安義

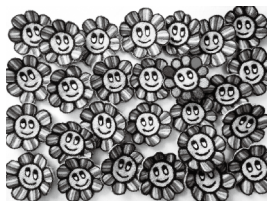
“こんにちは！”と明るく元気に挨拶を返してくれた安義さんの病室には，動物の絵やフェルトを使ったアート作品が壁一面に飾ってありました。自分らしい活動として絵画を勧めると，とても喜んでくれました。その後，徐々に傾眠することが増え永眠されましたが，今も大好きな絵をたくさん描いていることと思います。（担当 OT：山口良介）



6月号「あじさい」 毎田順子

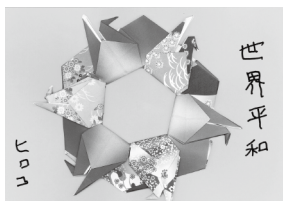
筋ジスの障害をもち，手足の自由はききませんが，絵を描くことが生き甲斐です。表紙に選んでいただき，病院の先生方，看護師さん，地域の皆さんにあらためて感謝致します。人との出会いを大切にこれからも生きていきます。

次年度も募集致します。どうぞ、奮って御応募ください。（詳細は次頁をご覧ください）



7月号 「にじいろのこひまわり」 大関 恵&麗海

事故に遭い、一緒に手をひいていた愛娘を亡くしました。意識不明の重体から治療を始めたばかりのころ、作業療法として羊毛フェルトに出会いました。作品は、娘の母校である保育園の同級生、担任の先生方に宛てました。ひとつ違ったこひまわりは、わが娘の魂です。お世話になった方々へ、感謝の気持ちでいっぱいです。



8月号 「鶴・世界平和」 井上博子

スモン病の後遺症による下肢麻痺、視力障害のために車椅子生活となり、さらに全身の痛みに終日耐えられている方ですが、現在、その痛みを忘れるほど熱中されているのが折り紙です。鶴は得意な作品で、平和の象徴とされる鶴が1つの輪になることで世界が平和になるといいな、との思いが込められています。（担当 OT：米村真砂美）



9月号 「ふるさと千歳の鮭」 中村 武

みどりの里に入所されている、脳性麻痺と知的障害を合併する重症心身障害の50代の方の作品です。制作期間中は、毎日次の作業療法の時間を楽しみにされ、経過をご家族やスタッフに報告しながら過ごすことができました。表紙に決まってからも大喜びで自慢しています。「みんなに、みてもらいたいです」とのことです。（担当 OT：佐藤 匠）



10月号 「おしゃれなみのむし」

バルツァ・ゴードルのみんな

羊毛フェルトを入れた茶こしを手で振り、スイッチを使ってぐるぐると回して丸めました。それをテグスでつなぎ、目をボンドでつけました。この作業には、7名の利用者様がかかわっています。できあがった「みのむし」を OT が木につるし、それを利用者様がデジタルカメラで撮影しました。（担当 OT：北野真奈美、杉原史高、渡辺雅俊）



11月号 「山里の冬」 山谷一芳

私は9歳でデュシェンヌ型筋ジストロフィーと宣告され、今現在は寝たきりで人工呼吸器を使用し、パソコンを趣味に楽しんでいます。私は創作が大好きで色んなことに興味をもって日常を過ごしています。複数のソフトの操作できる部分を探して、数年でようやくこれくらいの絵が描けるようになりました。



12月号 「サンタがやってきた」 田上洸暉

ぼくは、クリスマスが好きです。理由は、プレゼントがもらえたり、ふんいきが好きだからです。サンタさんに会えたらどんな感じだろうと思いました。なので、会えたところをかきました。うれしい気持ちをかきました。飛びはねたいくらい、うれしい気持ちをかきました。